

キーパーが声のない時、他の練習している者は気が合いが入りにくいと言う。

キーパー僕一人に対して、他の部員、全員を僕は相手だ。その対立した練習に負けてはならぬ。

皆と雑談しながら考えた。

当然、試合に勝つ為に練習するけど、しかし、練習自体が「苦しみと喜び」や。

山を登るのと同じで、登ってしまおうと、また、次ぎの山が目標として必要や。究極の目標には終わりはないのや。究極の目標は、いつも、永遠に続くもんや。

目標を大きく持って、それに向かって行進する事自体が大切や。行進しているその時、その時自体が、人生で一番、大切に、幸せなんや。

「今日の練習も、別に本当は、ハンドボール大会に勝つ為だけにやっているわけではないのや。」と、つくづく思うようになった。

夜、皆で差し入れを食べながら、遅く迄、ガヤガヤ雑談。